

人種差別

和歌山地方事務局・和歌山県人権擁護委員連合会が募集した、第33回全国中学生人権作文コンテスト和歌山県大会において奨励賞を受賞されました作品をご紹介します。

人種差別

金屋中学校 一年 中屋侑華

毎週読んでいた子供新聞にこんな記事がありました。

『「人種差別」黒人がデモ』

これは、黒人の少年を射殺した白人男性が裁判で無罪になったことから始まりました。「撃つたのは自分を守るためで、仕方なかった」と判断されたのです。しかし、無罪に反対するデモが、ニューヨークやロサンゼルスなど百以上の街で行われました。「黒人は殺されてもいいのか」「無罪は、撃つたのが白人だったからだ」と抗議しています。

私はこれを読んで殺人犯が無罪だなんて！と驚きました。しかもそれが白人であることが理由であるとするれば、殺された黒人の人がかわいそ

うでした。もしこの二人の立場が反対だったら、黒人の人はきつと有罪と言われたと私は思います。

でも、アメリカでは、黒人が奴隷いとして扱われていた時代があったそうです。ヨーロッパの国々は五百年以上前から、アフリカで黒人をとらえ、モノのように売り買いし、アメリカにも多くの黒人が連れてこられました。そのため、アメリカでは「黒人奴隷いを持つ」という法律もありました。

人を売り買いするなんて、今の時代の日本では考えられません。しかも法律まであるなんて私には想像がつかせませんでした。

そんな黒人の人々のためにがんばった人はたくさんいると思います。私がすごいと思ったのは十六代アメリカ大統領のリンカーン大統領です。この人は「奴隷い解放の父」と呼ばれています。

「すべての奴隷いは一八六三年一月一日から、永遠に自由になる」とする「奴隷い解放宣言」を出しました。その二年後、一八六五年に奴隷い制度はなくなりました。でも、黒人には国民の当たり前の権利である投票権がありませんでした。法律で、バスやレストランで白人と別の席に座ることも決められました。

五百年間も待つていたのにまだ人

種差別が残っているなんて、長いなあと思います。

しかし、政府を動かすほどの国民的な運動が起こります。この運動の中心にいたのは、キング牧師という人です。この人はのちに「ノーベル平和賞」を受賞します。そして一九六三年に、「子どもたちの時代には、人が肌の色で評価されないのが私の夢だ」と演説しました。

その翌年、一九六四年には、法律による人種差別がなくなります。

今のアメリカ大統領のオバマ大統領は、黒人で初めて大統領になった人で、「差別を無くそう」と訴えています。このオバマ大統領も、デパートの警備員に「万引きをするのでは？」と疑われて後をつけられたり、「襲われるのでは？」と思われ、車のドアをロックされたりしたそうです。そして

「自分に問いかけてほしい。人格ではなく、肌の色で人を判断していいだろうか。」と呼びかけました。

私は、人種差別は外国の事だから、よく分からなかったけど、クレヨンや色えんぴつ、絵の具などの「はだ色」という色が最近は、「うすだいたい」という名前になっていること、人のはだの色は、それぞれとい

う人種差別を無くすためのものかなと思います。

人種差別というのは、たかが肌の色が違うというだけで差別される、大変迷わく話だと思う。生まれてからずっと肌の色は変わらないし、生まれるときに肌の色は決められない。だから、好きで黒人、白人に生まれきたわけではないのに差別される。

この作文を書くために、人種差別や黒人、白人についてたくさんのことを調べました。福沢諭吉の「学問のすすめ」にも

「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らず」と言われているように、やっぱり人は生まれながらに平等なんだと改めて思いました。

中国では、今も人身売買が行われているところも多くはないけれどあるようです。そんな事が少なくなっていくって、無くなってくれたらいいと思います。

どんな差別も無くなって、黒人と白人が仲良く平等に、安心して生活できる。そんな世の中になればいいなと思います。

人権に関するお問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課

TEL 52121111

FAX 3214827